

教育民生常任委員会

(高知県南国市・四万十市)
日程 令和元年9月24日～9月26日

高知県南国市では「食育」について調査しました。

南国市は平成17年9月に全国に先駆け「食育のまちづくり宣言」を行い、同年12月に「食育のまちづくり条例」が施行されました。

今回は学校給食における食育を中心に調査を行いました。市内各小学校ごとの教育目標と食育を関連させ、食事の重要性をはじめ、社会性や食文化の学習につなげていくなど目指すべき児童像の達成に向けた学習を取り入れていきます。例えば「とうもろこしの皮むき」「地域の方々と連携したもち米づくり」「高知県ならではのカツオのわら焼き」の実施など、特色ある食育を展開しております。

調査を行った中で、学校給食は食育のツールではあるが、学校給食が食育の全てではなく、給食以外の食事においても、食育を意識する必要があります。認識を変えていく必要があるという説明が印象的でした。

高知県四万十市では「大宮集落活動センター」の設立及び活動内容について調査しました。

四万十市の大宮地区では、平成18年にJAの出張所が撤退することとなり、これに伴い給油所及び

商店がなくなることから、住民の出資で会社を立ち上げ、給油所を継承すると共に、日用品を販売する店舗の経営も開始しました。

その後、地域住民の高齢化や人口減少による地域の衰退により、会社運営が困難になるという懸念から、大宮集落活動センターの設立につながっていききました。

同センターでは、地域の意見を取り入れて地域づくりをどのように進めていくかを検討したり、地域の賑わいづくりのために祭りやイベントの企画・運営を行うこと、さらには地域資源である大宮米のブランド化を行い域外への販売を行うほか、情報発信を強化し、大宮地区のファンを増やすための活動を行っています。

人口減少等による経営困難が今後の課題であり、地域が今後生き残っていくために、地域を支えていく意識の醸成が重要であるとのことでした。

(派遣委員)

館花一仁、金澤大輔、黒澤一夫
宮野和秀、田口裕、成田哲男



大宮集落活動センターにて「センターの設立及び活動内容」について説明を受けました。

議会運営委員会(愛知県岩倉市)

日程 令和元年10月23日～10月24日

愛知県岩倉市では「議会報告会」について調査しました。

岩倉市では、議会報告会を平成23年度より実施しており、当初は目新しい企画でもあったことから、参加人数が多かったものの、回数を重ねるにつれ参加者が徐々に減少する傾向にありました。

より多くの市民から意見を聞くためには、議員側から出向く必要があると考え、平成25年度より従来の「議会報告会」のほかに、具体的な課題について、地域別・分野別に団体及び市民を特定し出向く「意見交換会」を実施することとし、平成30年度では12回開催し157名の参加者があります。

また、意見交換会では、少数者のグループに分かれて意見交換ができるよう会場のレイアウトを見直すなど、話しやすい環境を作り、より広く市民の意見を聞こうとする工夫が見られました。

議会報告会は市民へ議会を知ってもらうとともに、市民の意見を聞き取る機会でもあることから、調査内容は来年度以降の本市の議会報告会開催に当たり、大いに参考になるものでありました。

(派遣委員等)

中山一男、栗山尚記、田村富男、倉岡誠
成田哲男、戸田芳孝、宮野和秀、兎澤祐一

世紀越えトンネル 建設加速化市町議会協議会

令和元年11月5日に本市と田子町の議会議員で構成される「世紀越えトンネル建設加速化市町議会協議会」全体会が本市において開催されました。

本協議会は、トンネルの両端となる本市と田子町において、トンネル建設の機運を醸成するため、全体会を毎年お互いの自治体で交互に開催しています。

全体会では、昨年度の活動実績報告と、今年度の活動計画について協議が行われ、引き続きトンネル建設に向けて関係機関や国会議員に対する要望活動や、住民へのPRを行うことなどを決定し、要望活動等に取り組んでおります。

また、秋田県鹿角地域振興局の田森建設部長から「秋田県における道路事業について」と題し、世紀越えトンネルを含めた国道整備の取り組みについてご講話をいただきました。

講話の中では、国道104号に関する県の考え方について、「交通量が少ないという課題があることから、人口減少が進む状況で、交通需要を高めながら交通量を増加させるためには、地域活性化策などによって交流人口の拡大を図ることが必要と考える」との意見が述べられました。